

満州第 9 3 8 部隊からの帰還

新谷 茂

生まれは美唄。長兄は現役兵として大陸に行き、支那事変や満州での戦線にも参加して戻ってきた。2 番目の兄も現役兵だったが、ずっと国内にいて戦地には行かなかった。

昭和 19 (1944) 年 3 月に、私は現役兵として満州に行った。最初にいったん集合のため、九州に渡ったが、そこでは軍服に着替えたただけですぐに満州に出発した。

私はソ連との国境とは川一本隔てただけの承德^{しやうとく}に配置された、野戦重砲兵第二十連隊（満州第 938 部隊）に配属され、兵隊としての初等訓練はそこで受けた。部隊に配属されて間もなく、砲隊は国内防衛のために引き揚げると言われた。そのため一部の重砲などは、早期に貨車に積んで、日本に戻す準備をしていた。

昭和 20 年 5 月ごろから、野戦重砲の日本本土への引き揚げの噂^{うわさ}が流れていたが、8 月になって、重砲は満州では使い道がないので、本土防衛のため北海道に戻ると言われた。

同じ 8 月にソ連が日本に宣戦布告してから後、ソ連軍が国境を越えてきているという情報はすぐに部隊に入ってきていた。ソ連軍が向かってきているようだという情報は入ってきていたが、情報と一緒にソ連軍が来るようなものだったので、ソ連軍によって連隊基地が爆撃されたと気づいた時には、すでにソ連軍がかなり侵攻してきていた。

終戦の土壇場^{どたんば}まで鉄道は生きていたので、ほとんどの野戦砲は牽引車で、すでに吉林^{きつりん}まで先に行かせていた。残った野戦砲はブルドーザーに引っ張らせた。

ソ連軍との戦闘に敗れ、1 か月間山の中を逃げ回った。前面に味方の歩兵部隊がいたため、野戦重砲は近くでは撃てず、使い物にならなかった。

自分の部隊は 14～5 人で後方支援の位置づけだった。ソ連の戦闘機が上空に現れることがたびたびあったが、上官からは撃つなよと言われていた。撃つと部隊がいると敵に知らせてやるだけになる。それでも敵機を目にすると撃つ人間がいて、そこを目がけて戦闘機は低空で向かってくる。機銃掃射で自分の部隊では 2 人が撃たれた。

部隊にいた時には敗戦の報は届いていなかった。のちに開拓団に合流して敗戦を知った。皆裸一貫で開拓団に合流する形になり、1か月ほど一緒に居た。マッチとタバコは持てるだけ持てと言われた。途中の農村で食糧と交換するためだった。

開拓団に加わって過ごしているうちに、満州にいた軍閥の兵か、どこの所属の兵なのかははっきりしないが、兵隊が10人ほど開拓団の護衛に来てくれて、はやく引き揚げるよう^{うなが}促された。9月末に吉林^{きつりん}に入ってから、その人たちと別れた。軍人だったのか、軍閥だったのかは、結局ははっきりしなかった。すでにソ連兵は吉林に来ていたが、自分たちが吉林に入った時には、すでにシベリアへ送る男たちを徴収し終わった後だったので助かった。

開拓団（かいたくだん）

満蒙開拓団。昭和6（1931）年から昭和20（1945）年の敗戦まで、旧満州や内モンゴル地区への農業移民政策として、また対ソ連防衛強化のために計画され、一般開拓団と義勇開拓団とが入植した。その入植地は、関東軍、満州国の政府機関、半官半民の満州拓殖公社によって、中国人や朝鮮人から極めて安い値段で強制収容されたものであった。敗戦直前、ソ連の対日参戦で関東軍から置き去りにされ、多大な犠牲者を出した。

軍閥（ぐんぱつ）

軍事力を背景に、地方に割拠する集団。辛亥革命（1911-12年）後の中国で、中央の統制を受けず、各地に自己の勢力圏を形成していた大小軍閥によって、中国全土は割拠された。省単位の大軍閥から小都市を支配するだけの小軍閥まであった。

きつりん
吉林高等女学校が民間人の引き揚げ用の事務所になっており、引き揚げまでの間、そこで毎日、その日 1 日分の食糧を貰っていた。兵隊の中には、引き揚げの時に軍人だとわかると色々とややこしいので、南満州鉄道の社員を名乗ったりして、民間人に偽装した者もいた。私は開拓団に加わってからは、軍人ではなく民間人扱いになっていたのも、民間人と一緒に引き揚げ船に乗り、無事に佐世保に帰りついた。自分たちの引き揚げは早い方だと思っていたが、日本に戻ると結構多くの部隊が戻ってきていた。

(しんや しげる 大正 12 (1923) 年 美唄生まれ)

※本稿の語り手である新谷茂さんは、平成 27 年 9 月にお亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈りいたします。本稿は、ご遺族のご好意により掲載いたします。

南満州鉄道（みなみまんしゅうてつどう）

明治 39 (1906) 年から昭和 20 (1945) 年まで、満州国に存在した日本の特殊会社。鉄道事業を中心として広範囲にわたる事業を展開し、日本による満州国経営の中心となった。